

チルドレンファーストの社会の実現に向けて

子供政策の基本スタンス

子供を主役に、ステージを通じた一貫したサポートにより、全ての子供たちの可能性を育んでいく。

- ◆子供を**客体**でなく**主体**として捉え、生まれてから幼児期、学童期、青年期など、ステージを通じて**一貫してサポート**し、誰一人取り残すことなく、**全ての子供たちの可能性を大切に育んでいく。**
- ◆エビデンスに基づき、**子供の実情や抱える課題を的確に把握し、**
子供に寄り添った子供のための実効性ある政策を練り上げ、機動的に展開していく。

政策展開のアプローチ

- ✓ 都政の政策全般を「**子供目線**」で捉え直す。
- ✓ **多様な主体と協働・連携**を深め、社会全体で子供へのサポートを強化していく。
- ✓ **DXの推進**により、新たな時代にふさわしい取組を展開する。

子供政策を全庁的に推進する司令塔として設置

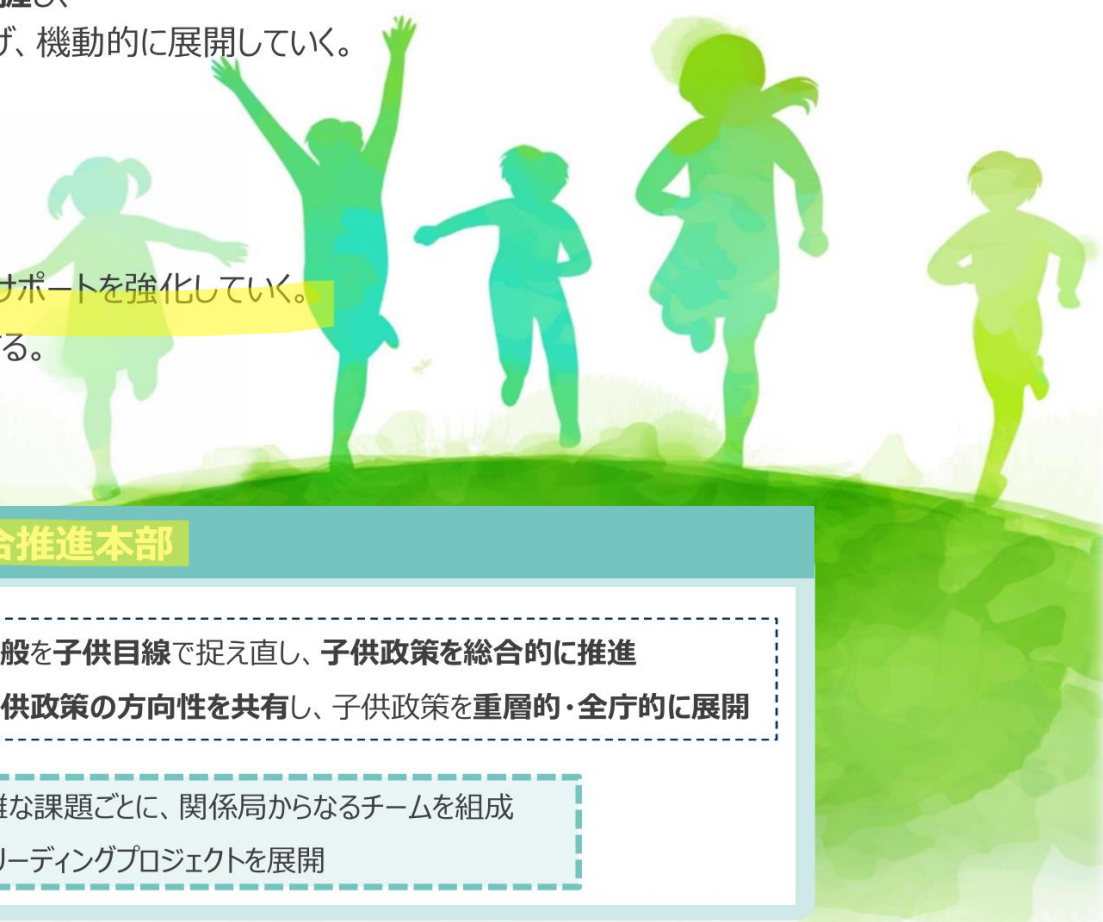
子供政策総合推進本部

- ◆ 本部長：知事
- ◆ 副本部長：副知事、教育長
- ◆ 本部長：子供政策連携室長、全局長

- ✓ 都政の**政策全般**を**子供目線**で捉え直し、**子供政策を総合的に推進**
- ✓ **庁内各局の子供政策の方向性を共有し、子供政策を重層的・全庁的に展開**

子供政策連携 推進チーム

- ・既存の枠組みでは対応が困難な課題ごとに、関係局からなるチームを組成
- ・組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクトを展開



チルドレンファーストの社会の実現に向けて

東京都の子供政策・少子化対策の推進体制

バックキャスト

アジャイル

都政の羅針盤である「未来の東京」戦略に掲げられた**2040年代の東京の姿**を目指し、**バックキャスト**の視点からそこに向かう道筋を定めた上で、

アジャイルに「こども未来アクション」と「東京都の少子化対策」を**毎年度改定**するなど、**都独自の機動的な取組**を推進

「こども未来アクション」

子供目線で捉え直した
政策の「現在地」と、子供との対話を通じた
「継続的なバージョンアップの指針」



「東京都の少子化対策」

東京都の少子化対策を
総合的に推進するための
アクションプラン



連携

法律に基づく計画（法定計画）

計画期間：2020年度から2024年度までの **5年間**

「東京都子供・子育て支援総合計画（第2期）」

- 「子ども・子育て支援法」「次世代育成支援対策推進法」「子どもの貧困対策の推進に関する法律」に基づく、福祉、保健、医療、雇用、教育などにわたる子供・子育て支援の総合計画



「東京都子供・若者計画（第2期）」

- 「子ども・若者育成支援推進法」に基づき策定
- 全ての子供・若者が健やかに成長し、円滑に社会生活を営むことができる社会の形成を目指す



東京都こども未来アクション2024

こども未来 アクション

— 2024 —



東京都

令和6(2024)年2月

こども未来アクション2024

目 次

1章 子供の生の声と施策への反映

子供の実態、声や思いを子供政策に反映……………	7
子供の居場所におけるヒアリング……………	9
こども都庁モニター……………	22
出前授業……………	30
SNSを活用したアンケート……………	36
コロナ禍を経験した子供・保護者の声……………	41

2章 チルドレンファーストの社会の実現に向けて

目指す東京の姿……………	49
チルドレンファーストの社会の実現に向けて……………	50
子供の意見に基づく子供政策の推進……………	54
エビデンスに基づく子供政策の推進……………	56
東京都こども基本条例……………	57
こども未来会議……………	62

3章 全ての子供の笑顔を育む子供政策の加速に向けて

組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト… 69

乳幼児期の子育て ……………	73
子育てのつながり創出……………	85
子供の笑顔につながる「遊び」の推進……………	97
子供を事故から守る環境づくり……………	113
ヤングケアラーを支える……………	127
日本語を母語としない子供を支援……………	137
ユースヘルスケア……………	147
学齢期の子育て……………	157

子供政策強化に向けた重点アクション……………169

政策の柱1	誰一人取り残さない視点から、 子供へのサポートを強化 ……………	173
政策の柱2	子育て世代に寄り添い、 妊娠・出産・子育てを全力で応援 ……………	187
政策の柱3	「東京型教育モデル」により、 教育の質を向上……………	197
政策の柱4	多様な主体と連携し、 子供の笑顔を育むアクションを展開……………	201

区市町村との更なる連携強化……………209

子供の笑顔につながる区市町村の取組を応援……………	211
---------------------------	-----

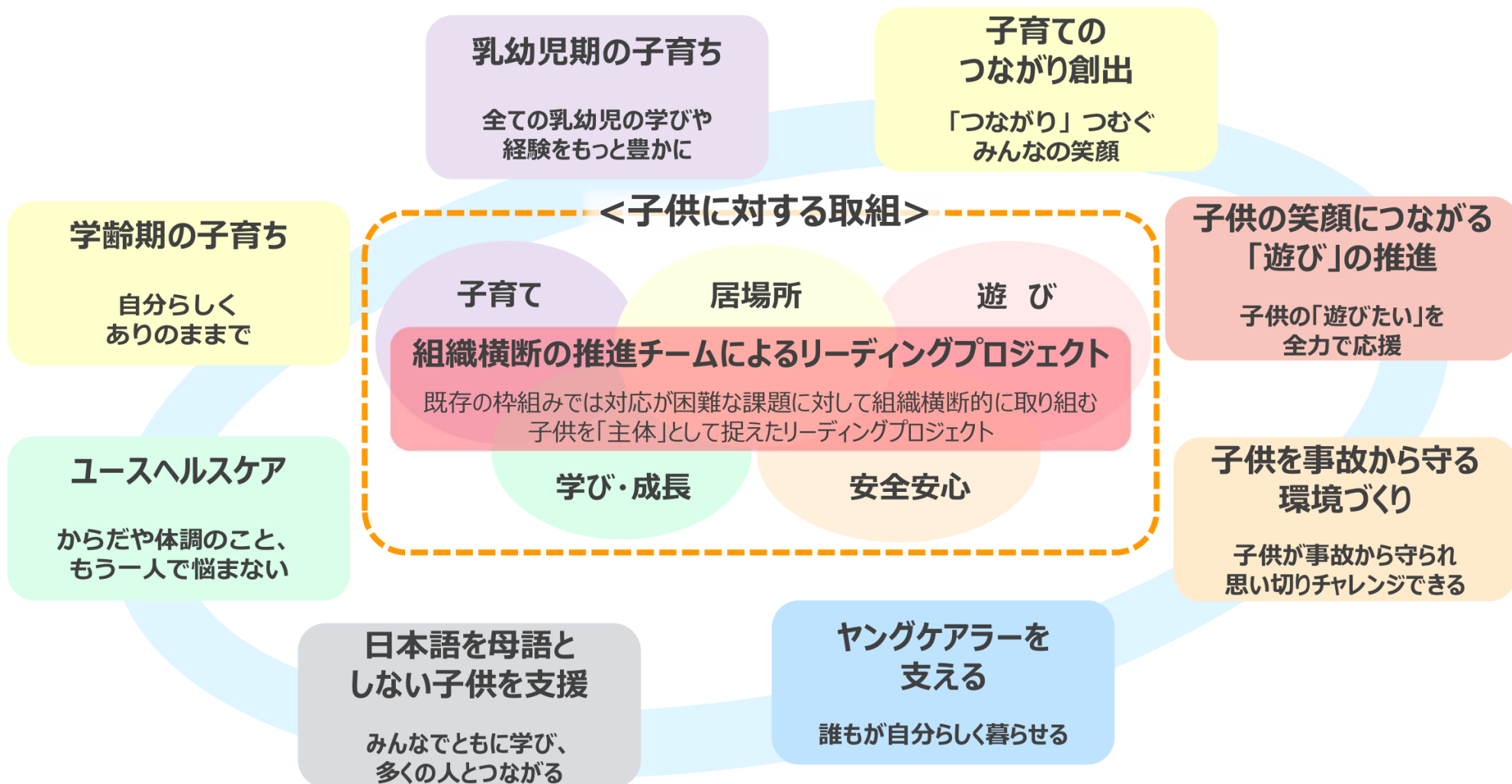
資料編

●都庁一丸となった子供の意見を聴く主な取組……………	231
●子供に関するエビデンス……………	235
●子供に関する定点調査 「とうきょう こども アンケート」……………	237
●社会環境が変化する中での子供の「今」……………	244
●東京都こども基本条例の 普及啓発に向けた子供との対話……………	247
●子供政策の全体像……………	265

政策の柱1	誰一人取り残さない視点から、 子供へのサポートを強化 ……………	269
政策の柱2	子育て世代に寄り添い、 妊娠・出産・子育てを全力で応援 ……………	305
政策の柱3	「東京型教育モデル」により、 教育の質を向上……………	317
政策の柱4	多様な主体と連携し、 子供の笑顔を育むアクションを展開……………	327

組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクト

既存の枠組みでは対応が難しいテーマごとに、子供政策連携室が核となり、政策分野の垣根を越えて関係局からなる推進チームを組成し、リーディングプロジェクトとして組織横断的に取り組んでいく。



子供政策強化に向けた重点アクション

【政策の柱1】

誰一人取り残さない視点から、子供へのサポートを強化

- いじめや不登校、自殺等の件数が増加傾向にあるなど、**困難に直面し悩みを抱え、生きづらさを感じている子供が増加**
- 孤独・孤立に関する悩みや不安を抱える子供たちを受け止め、**全ての子供が安心して成長できるためのセーフティネットを形成**していくことが必要

様々な困難を抱える子供に寄り添い、
一人ひとりの状況に応じた支援を強化

いじめ対策

不登校対策

自殺対策

虐待防止対策

子供の居場所

性被害対策

貧困対策

【政策の柱3】

「東京型教育モデル」により、教育の質を向上

- 障害の有無などにかかわらず、**あらゆる子供の可能性を伸ばし、一人ひとりの多様なウェルビーイングを実現**する教育環境の充実が求められている
- **デジタルを活用した問題解決力など、これからの時代を切り拓く力を身につけられるよう、子供たちの学びや挑戦を応援**することが必要

変化の激しい時代において、DXも活用しながら、
誰一人取り残さず、一人ひとりの学び・挑戦を支援

特別な支援を必要とする
児童・生徒への対応

学校現場でのデジタル教育の
推進

グローバルに活躍できる人材の育成

【政策の柱2】

子育て世代に寄り添い、妊娠・出産・子育てを全力で応援

- **安全・安心な保育実施体制の整備**など更なる質の向上が必要
- 子育ての負担や不安等を抱える**在宅子育て家庭**など、**全ての子育て家庭の多様なニーズ**に応えていくことが求められている
- 学童クラブなど**放課後における子供の安全・安心な居場所確保**のニーズに応える取組が必要

子育て家庭のニーズを踏まえ、質・量の両面から
安心して子供を育てられる環境づくりを推進

子育て支援

保育の質の向上

学童クラブの整備・サービスの質の向上

こどもDX

【政策の柱4】

多様な主体と連携し、子供の笑顔を育むアクションを展開

- **子供が社会の一員として、地域課題の解決**に主体的に取り組めるよう、**様々なステークホルダーと連携しながら、参画の機会を創出**することが求められている
- 「育業」の推進を契機として、夫婦で協力して育児ができ、**親子時間を大切に**した多様な働き方を推進していくことが必要

官民が一体となって、子供の社会参画の機会を
創出するとともに、多様な働き方を更に推進

こどもスマイルムーブメント

育業の推進

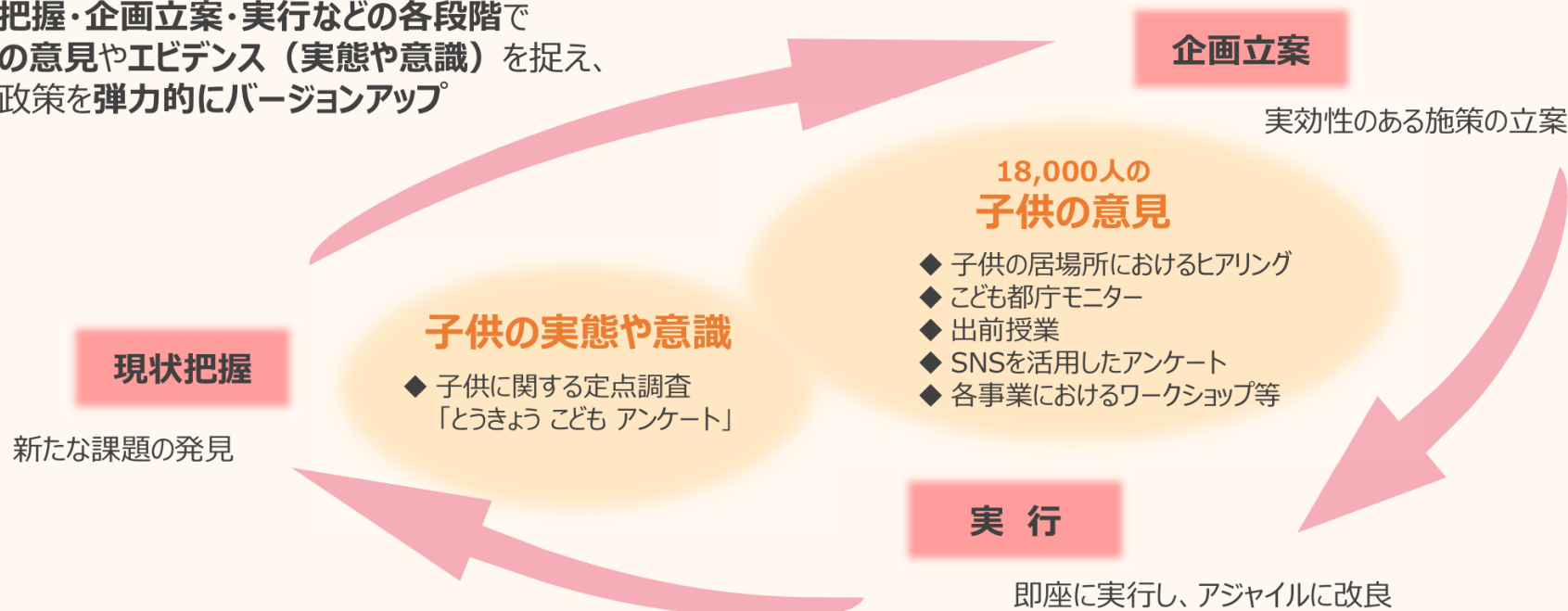
区市町村支援

子供の実態、声や思いを子供政策に反映

- 子供や子育て家庭を取り巻く環境は、複雑化・複合化するとともに刻々と変化しています。
- 「子供の最善の利益」の観点に立って子供政策を推進していくためには、子供に関する実態や意識の変化を的確に把握し、当事者である子供の意見をつぶさに聴いていくことが不可欠です。
- 2023年度においては、幅広く子供の実態や意識を知る取組を実施するとともに、様々な工夫を凝らして子供政策に関する子供の率直な意見を聴く取組を強化しました。
- 「こども未来アクション2024」を策定するに当たっては、これらの取組で得られた子供の実態、声や思いを各局の施策に反映させ、子供目線での施策のバージョンアップをしています。

子供の意見やエビデンスを反映した子供政策の推進

現状把握・企画立案・実行などの各段階で
子供の意見やエビデンス（実態や意識）を捉え、
子供政策を弾力的にバージョンアップ



子供の実態、声や思いを子供政策に反映

子供の意見を聴いて施策に反映する取組

- 幅広い年代の多くの子供から意見を聴くとともに、**子供が思っている率直な意見**を引き出し、**様々な環境下にある子供の声**もしっかり聴き取ることができるよう、**質と量の両面から子供との対話を強化**しました。
- 具体的には、2023年4月から12月にかけて、子供の居場所におけるヒアリングやこども都庁モニターなど、**多様な手法**を用いるとともに、**子供との対話の実施規模**についても**昨年度より大幅に増や**しました。

子供の居場所におけるヒアリング

子供が日常を過ごす居場所に足を運んで、
600人の子供からヒアリング

こども都庁モニター

年代別に公募した1,200人のモニターに、
各局の施策に関するWebアンケートを実施



出前授業

都職員が小・中・高校に出向き、子供政策に
関する様々なテーマで1,600人に授業を実施

SNSを活用したアンケート

中高生等延べ15,000人に
SNSを活用してアンケートを実施

各事業におけるワークショップ等

庁内各局の多様な施策において、
子供の参加や対話の機会を創出

子供に関するエビデンス（実態や意識）を把握する取組

- 2023年5月から6月にかけて、**子供の幸福感や自己肯定感、居場所などについて調査**しました。
- 東京の子供の特徴を知るため、**国際的な調査等との比較も実施**しています。

子供に関する定点調査 「とうきょう こども アンケート」

幅広い年代の子供とその保護者
7,500世帯を対象に郵送で調査を実施



【 意見と今後のアクション 】

悩みの相談 に関する意見 1

<実際の発言に基づいて記載>

不安なことや辛いことを気軽に相談できるところが必要

- 学校の愚痴を相談できる人がほしい（小学生@子供食堂）
- しょうもないことで時間を使ってもらっても申し訳ないから、死ぬギリギリにならないと相談してはいけないと思っていた（中学生@ユースセンター）
- 共感してくれるだけでもいい。気持ちを上げてくれる人がいると確実に悩みは減る（高校生@ユースセンター）

相談窓口には、相手との信頼関係が必要

- 安心できる人、知っている人じゃないとイヤだ（中学生@子供劇場）
- 相談窓口で電話しても誰が出るのか分からない。話せるようになるまで心の距離がある（中学生@ユースセンター）
- 大人の世代とはいじめのあり方も違うので話しても伝わらないと思う（中学生@ユースセンター）
- 電話 1 本で心を開けと言われても難しい（高校生@ユースセンター）
- 同じ目線でないと距離を感じる、大人を怖いと思ってしまう（高校生@ユースセンター）
- 相談する相手を事前に知れて、選べるようにすると利用しやすくなる（高校生@ユースセンター）
- ピアサポーターの大学生には話しやすい（高校生@ユースセンター）
- 言いふらさない人（中学生@フリースペース）

SNSの方が気軽に相談できる人もいる

- 身近な人だと心配される。顔を知っているから言えない悩みもある（高校生@ユースセンター）
- 気楽にインターネットで相談できたらいい（小学生@子供食堂）
- SNSやインターネットで仲良くなった人に悩みを相談するのもあり（高校生@ユースセンター）
- 電話は苦手だけど、LINEで気軽に相談できるならいいかもしれない（中学生@子供食堂）
- AIだと相手が人じゃない分、しゃべるよりテキストでいい。人だと、相談相手に「この人、こんな人なんだ」と思われることも嫌だ（高校生@ユースセンター）
- 担任と面談があるけど、相性もあるからAI相談があってもいいのでは（高校生@ユースセンター）

今後のアクション

- 子供・子育てメンター “ギュッとチャット”
 - SNS等を通じて、利用者が選択可能な多様な相談相手*が、継続的に子供・子育て家庭に傾聴・共感し、孤独・孤立による不安や悩みの深刻化を予防
 - AI等の技術を併用し、利用者の異変を検知する等のリスク管理を実施するなど、安心して利用でき、心の拠り所となる居場所づくりを推進
 - 2024年度から、SNS等活用の相談事業をスタートし、AIによるサポートを順次拡大していく予定

*多様な相談相手のイメージ

心理士、保健師等の専門職、大学生、相談対応経験の豊富な人 等



子供の居場所におけるヒアリング 【意見と今後のアクション】

悩みの相談 に関する意見 2

<実際の発言に基づいて記載>

学校での困りごとについて、先生には相談しにくい子供もいる

- ・先生は忙しそうで話しかけづらい（小学生@子供食堂）
- ・担任の先生には言わない、我慢する（小学生@子供食堂）
- ・学校で不安なこと、担任にも相談できない気がする。おおごとにしたくない（小学生@学童クラブ）

スクールカウンセラーについての意見

- ・家族に悩みを相談しづらい。週に1度だけ来るスクールカウンセラーには何でも話せるし、相談できる。でも予約が1か月先くらいまで取れない。毎日来てほしい（中学生@子供劇場）
- ・カウンセラーの先生に、ずっと愚痴を言っている（小学生@学習支援拠点）
- ・スクールカウンセラーとよく話をしていた。放課後によく行って楽しかった（高校生@学習支援拠点）
- ・直接担任に言っても上手くいかない。スクールカウンセラーから伝えてもらうことで物事が動く（高校生@各種支援団体）
- ・教室とカウンセリングルームの場所を離してほしい。入るのを見られるのが嫌（小学生@子供劇場）

相談だけでなく、解決に向けて動いてほしい

- ・解決しないと思っていると相談しない（中学生@プレーパーク）
- ・担任の先生は話を聞いてくれるけど、何も変わらない（中学生@プレーパーク）
- ・相談しても変わらない（小学生@フリースクール）

今後のアクション

● スクールカウンセラーの配置

- ・ 児童・生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて相談を受けるなど、学校で子供の心理に関する支援を実施
- ・ 小・中学校の配置拡充を引き続き実施するとともに、都立高校において勤務日数を増加 拡
- ・ 都立特別支援学校にスクールカウンセラーを配置し、相談体制を充実させるモデル事業を実施

● スクールソーシャルワーカーの活用事業

- ・ 社会福祉の専門的な知識や技術を活用し、家庭や地域の関係機関との連携を図り、児童・生徒の悩みや、抱えている問題の解決に向けて活動
- ・ 小・中学校におけるスクールソーシャルワーカーの配置支援を拡充するとともに、専門性の高い都のユースソーシャルワーカー等を区市町村へ派遣し、スクールソーシャルワーカーに対する助言・サポートなどの支援を実施 拡

子供の居場所におけるヒアリング 【意見と今後のアクション】

学習環境に関する意見 1

英語を用いたコミュニケーションや異文化交流の機会の充実

<実際の発言に基づいて記載>

- ・英語のスピーキング、もっとやってほしい（中学生@ユースセンター）
- ・違う国の人と関われる授業がもっとあると良いと思う（中学生@プレーパーク）
- ・コミュニケーションをとりたい。気持ちを伝えられることが大切（高校生@ユースセンター）
- ・英会話をするのが楽しい。やりがいがある（高校生@学習支援拠点）
- ・学校で習う文法も大事だが、伝わる英語が使える方がいいので、駅で外国人に切符の買い方を教えている（高校生@プレーパーク）
- ・英語を使って仕事をしたい（高校生@ユースセンター）
- ・海外で働きたい（高校生@ユースセンター）

将来の仕事や、自分を取り巻く社会・地域に関する学び

- ・あまり知られていない大事な仕事を知る機会があるといい（中学生@ユースセンター）
- ・何をしたいのか見つからない（中学生@学習支援拠点）
- ・将来役に立つことを授業してほしい（中学生@子供食堂）
- ・地域の人たちとの交流、大事だと思う。きちんと話せる環境が減ってきている気がする（中学生@ユースセンター）
- ・子供に機会を提供してほしい。自分の興味のある分野と繋げてくれる役割を東京都に望んでいる。自分は企業の企画に志願し、海外研修に行ったりしている（高校生@ユースセンター）

多様な体験機会や主体的な学び

- ・タブレットだけでなく観察・体験・遊びを通して授業を面白くしてほしい（中学生@プレーパーク）
- ・学校のみならず商品を開発する授業をやった。普段できない体験をさせてもらって大事にしていると感じる（小学生@子供劇場）
- ・機械を使う授業がしたい（小学生@子供食堂）
- ・保育園に手伝いに行きたい（小学生@子供食堂）
- ・自分で決めた勉強をやりたい（小学生@児童館）
- ・中学から高校で授業を受ける感覚が変わった。選べる自由度から自主的に受けている感覚になった（高校生@プレーパーク）

今後のアクション

- **生きた英語を身に付け、コミュニケーション能力を伸ばす教育** 拡
 - ・ TGG※(青海・立川)を活用した宿泊プログラムにより、「英語漬け」の環境を創出
 - ※TOKYO GLOBAL GATEWAY
 - ・ 海外の大学等と連携し、国内外の中高生と英語で交流するイベントを開催
 - ・ 都立学校生を海外に派遣し、様々な交流プログラムを提供
 - ・ 都立高校で生徒がネイティブ講師とオンラインで英会話レッスンを行う機会を拡充
- **企業と連携したアントレプレナーシップ教育の推進事業** 拡
 - ・ 実際のビジネス活動を体験する機会を設けるなど、探究的な学習やアントレプレナーシップ教育等を推進
- **普通科高校におけるスキルアップ推進校指定制度**
 - ・ デジタルスキルや職場体験を通じたコミュニケーションスキル等を習得
- **学校における体験活動の充実**
 - ・ 「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」において、都内学校向けに、希望する体験活動の機会を提供

子供の居場所におけるヒアリング 【意見と今後のアクション】

遊び場・居場所に関する意見

子供たちの遊び場・居場所は生きる上で必要不可欠な場所

<実際の発言に基づいて記載>

- ・プレーパークがないと生きていけない（中学生@プレーパーク）
- ・児童館がないと遊びに行く頻度が減る（小学生@各種支援団体）
- ・ここがなくなったら居場所がなくなる。高校生になっても来たい（中学生@子供食堂）
- ・大人にプライベートなことも話せる安心な居場所がほしい（小学生@プレーパーク）
- ・ここに来るのはお金を使わずに交流できるから（中学生@ユースセンター）
- ・高校よりこの方が友達ができている。ここに来てよかった（高校生@放課後等デイサービス）

ボール遊び禁止など、公園での制限が多い

- ・公園では禁止看板ばかり（小学生@子供食堂）
- ・近所の公園がボール禁止になった。遊ぶ場所なのにボールで遊べない（中学生@子供食堂）
- ・ボール遊び禁止の公園でなくても、うるさいと怒られる（中学生@子供食堂）
- ・禁止が多い。プレーパークみたいな公園が増えてほしい（中学生@児童養護施設）

遊び場や居場所を整備するときは、子供たちの意見を聴いてほしい

- ・公園を新しくするとき大人の意見ばかり聴いて、子供の意見がなかった（中学生@プレーパーク）
- ・どうせ「ダメ」って言われるから、スタッフに言ったことはない（小学生@学童クラブ）
- ・ここでは子供の意見が取り入れられる。こういう所が広まってほしい（高校生@ユースセンター）

中高生が安心して行ける地域の居場所が少ない

- ・小さい子供に占拠されている（中学生@プレーパーク）
- ・中高生だけの場がない（高校生@プレーパーク）
- ・有料の体育館やファミレスに行っている子もいるが、自分たちはお金がない（中学生@児童館）

今後のアクション

- 子供の意見を反映した遊び場 づくりの推進 拡
- ・ 区市町村が、子供の意見を踏まえて、プレーパークやボール遊び場などを整備する事業を支援
- ・ 「学び」「居場所」「相談場所」「インクルーシブ」の機能も有する遊び場を優先的に採択
- ・ 2024年度は、採択事業数を拡大



- 遊び場・居場所は、育つために欠かせないものであることが分かります。そこに行けば誰かがいる安心感があり、様々な年齢の子供、家族や先生以外の大人と交流することができる貴重な場であることが伺えます。一方で、大人だけで決めたルールに納得がいけないと感じる声も挙がっています。
- 寄せられた意見を踏まえて、子供の意見を取り入れながら、気軽に立ち寄れる遊び場や居場所を増やしていきます。

子供の笑顔につながる区市町村の取組を応援



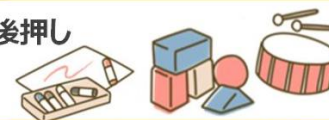
組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクトにおける、主な区市町村連携の取組【再掲】

1. 乳幼児期の子育ち

とうきょう すくわくプログラムの実践に係る経費を補助（子供政策連携室） 新

- プログラムの全域展開に向け、意欲ある全ての園でプログラム実践を行えるよう、実践に係る経費を補助し、**園の取組を財政的に後押し**

※補助経費例： 物品購入費、人件費など



とうきょう すくわくプログラム（ベータ版実践）

2023年度の 取組成果

都内4つの連携自治体の実践協力園14園において、各園の環境や強みを活かしながら、乳幼児の成長・発達段階や興味・関心に応じた探究活動を実践しました。

多様な実践テーマ例

光

- ✓ 水や紙など様々な素材を光に照らし、反射する光や浮かび上がる影の形を楽しむ など



影



音

- ✓ 身近な音を題材に「この音は何だろう」「音ってなんだろう」という問いをもとに、楽器などを使い、子供同士で音を楽しみながら、振動を感じる、音を身体や絵で表現 など

楽器

自然

- ✓ 山や森、園庭の自然などに触れ合いながら、葉や木の実の色の違い、形の違い、土や泥の感触、形状の面白さなど、様々な身の周りの自然を体感
✓ 子供たちが感じた自然を、絵や言葉など様々な形で表現 など

植物（オリーブ・柿の木）

泥・砂遊び



色

- ✓ 子供同士で様々な色を重ね合わせ、色の変化を楽しむ、様々な色作りに挑戦 など



- ✓ 絵本の世界に入り込んで、子供の想像する絵本の世界を絵で自由に表現 など

絵本

子供の笑顔につながる区市町村の取組を応援

組織横断の推進チームによるリーディングプロジェクトにおける、主な区市町村連携の取組【再掲】

1. 乳幼児期の子育て

子育て家庭の多様なニーズに寄り添いながら、就労等の有無にかかわらず定期的に預かる取組を拡充（福祉局） 拡

保護者の就労等の有無にかかわらず、乳幼児期から他者と関わる機会を確保し、非認知能力の向上など、全ての乳幼児が健やかに成長できるよう、「子育て」を後押し。あわせて、在宅子育て家庭の孤立を防ぎ、「子育て」支援を充実

- 認可保育所、認証保育所、幼稚園など多様な施設において、地域のニーズに応じて多くの乳幼児を受け入れられるよう、運営費を充実
- 第二子以降の利用負担額を無償化し、多子世帯の子供の利用を促進
- 障害児等の受入れ加算を新設するとともに、医療的ケア児の受入れを支援
- 地域の実情に応じて柔軟に対応できるよう、引き続き、預かりの上限時間を設けずに取組を推進



国においても、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず、幼稚園・保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度（仮称）」の創設に向け、「制度の本格実施を見据えた試行的事業」を実施。
「制度の本格実施を見据えた試行的事業」では、補助基準上1人当たり「月10時間」を上限としている。

地域の民間団体等

2. 子育てのつながり創出

妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を展開（とうきょうママパパ応援事業、東京都出産・子育て応援事業／福祉局）

- 【とうきょうママパパ応援事業】 妊娠の届出をした全ての妊婦に保健師等による面接を行い、心身の状態や家庭状況、子育て支援ニーズ等を把握し、必要に応じて支援プランを作成の上、きめ細かい支援を実施。また、面接を行った妊婦には育児パッケージを配布
- 【東京都出産・子育て応援事業】 子供を産み育てる家庭を応援・後押しするために、妊娠届出や出生届出を行った妊産婦等に対し、育児用品や子育て支援サービス等を提供するとともに、とうきょうママパパ応援事業と連動し、伴走型相談支援と経済的支援とを一体的に実施



2. 子育てのつながり創出

子育て家庭を見守り・寄り添う、アウトリーチ型支援を充実（ファミリー・アテンダント／子供政策連携室） 拡

子育てに関する日常的な不安や悩みに寄り添う**地域の支援体制**を構築

- 支援体制の構築に取り組む**区市町村を対象とした補助**を創設
- 特に不安が生じやすい**0歳児家庭**に対して、**全戸への定期訪問等による見守り**を重点的に実施
- **地域団体、NPO、民間事業者等の多様な担い手**により、きめ細かな定期訪問や傾聴・協働のための支援体制を実現
- 区市町村独自の育児支援事業との効果的な連携により、様々な地域の実情を踏まえた重層的な支援を展開

2023年度から
先行実施

大田区、豊島区、江戸川区、日野市

定期訪問等による
見守り

重層的
アウトリーチ

傾聴・協働による
伴走支援

見守り＋育児支援品の提供



子育ての孤独・孤立による不安や悩みを予防・解消

傾聴・協働 とは

傾聴

訪問支援員が、子育て家庭が抱える**育児の不安や悩み等**について話をお聞きし、寄り添うとともに、その解消に向けて**一緒に考えていきます**。

協働

訪問支援員と保護者の方とが、**家事・育児等に関する様々な活動**を“一緒に”行います。一緒に子供と遊ぶ、一緒に区役所や病院に行くなど多様なニーズにお応えします。



3. 子供の笑顔につながる「遊び」の推進

子供が主体的に遊ぶ体験機会を創出する区市町村を支援（子供政策連携室） 新

- プレーパークでの遊びなど、子供が主体的かつ安全に遊ぶ機会を創出するため、プレーリーダー研修を実施するなど、質の高い遊びの環境づくりに取り組む区市町村を支援

＜参考＞冒険遊び場（プレーパーク）事業を子供家庭支援区市町村包括補助事業（福祉局）の対象として例示し、区市町村の取組を支援

誰もが遊べる児童遊具広場の整備（建設局）

- 都立公園にユニバーサルデザインに対応した遊具を順次導入するとともに、区市町村立公園への普及拡大を促進
- 遊具導入のノウハウやインクルーシブな公園づくりの理念を共有する情報交換会を区市町村と連携して実施するなど、誰もが遊べる児童遊具広場の普及啓発に向けた取組を実施

子供の意見を反映した遊び場づくりに取り組む区市町村を支援（子供の遊び場等整備事業／子供政策連携室） 拡

- 子供の意見を踏まえながら、プレーパークやボール遊び場など地域資源を活用した遊び場等の創出に取り組む区市町村を強力に支援（採択事業数を拡大）



＜コラム＞プレーパーク（冒険遊び場）とは？

冒険遊び場は、子どもが「遊び」をつくる遊び場です。そこでは火を使ったり、地面に穴を掘ったり、木に登ったり、何かものをつくったり……。落ち葉やどろんこや自然の素材を使って、遊び場にあるスコップや金づちや大鍋を使って、自分の「やってみたいと思うこと」を実現していく遊び場です。さまざまな遊びが展開されていくので、変化しつづける遊び場ともいえます。禁止するのではなく、いっしょに考えてやってみる。のびのびと思いきり遊べるこの場所は、子どもが生きる力を育むことを支えています。

＜出典＞特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会

令和5年度 子供の遊び場等整備事業補助金 概要

目的

子供が伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりを推進していく上で、**区市町村が、子供の意見を踏まえて、子供の遊び場等を基盤整備する事業を、都が支援することにより、子供の「遊び場」を創出し、「遊び」を通じた子供の健やかな成長を育むことを目的**

補助概要

- 予算額の範囲内で、毎年度、**対象事業を評価し、採択する事業を決定する**
(参考) 令和5年度予算額：3億円
- 補助期間は最大3か年を限度に単年度単位（年度ごとに都の審査が必要）
- 補助上限額は1億円、補助率は10/10

対象事業

プレーパークや地域資源を活用した遊び場など、**子供の「遊び場」の創出に資する次の事業を対象**

【子供の遊び場等基盤整備事業】

- 「遊び場」として、子供であれば誰でも無料で遊ぶことができる**屋外又は屋内施設**を主として整備
- 「学び」「居場所」「相談場所」又は「インクルーシブ」のうち、1つ以上の機能を持った施設を併せて整備することもできる
- 事業を実施するに当たっては、**子供に意見を聴いて「遊び場等」の整備内容に意見を反映させること**

優先的に採択する事業

こども未来アクション（令和5年1月30日策定）で掲げるリーディングプロジェクト：「子供の笑顔につながる『遊び』の推進」の趣旨に沿う次の事業を優先し採択する

- 幅広く子供に意見を聴いて、「遊び場等」の整備内容等に、その意見を取り入れ、**子供のニーズを反映した事業**
- 都として、区市町村の積極的な取組を期待する事業（プレーパークやボール遊び場の整備事業）
- 「学び」「居場所」「相談場所」「インクルーシブ」のうち、1つ以上の機能を持った施設を併せて整備する事業
- 補助金を契機として、**子供が多様な遊びを経験できる環境が新たに整備される事業**